

東日本大震災復興応援小金井プロジェクト

新しい公共支援事業 事業報告書

東日本大震災復興応援小金井プロジェクト協議会

■1 震災復興に対する地域の課題

小金井発の復興応援に向けて

東日本大震災の被災地の復興は、現地を見る限り進んでいる印象は持てない。

被災地の産業復興や雇用確保等での民間レベルの応援、サポートは2年を経た現在も大きな課題であり、これに対応する商店街、NPO、教育機関、行政等が連携、協働して担う「新たな公共」の考え方の基づいた継続的な取り組みが求められている。

小金井市においては、小金井市商工会や小金井市商店会連合会が東日本大震災直後から被災地に心を寄せ、復旧・復興に対する応援活動をスタートさせていた。

震災直後、民間の事業所レベルでつながりのあったいわき市（福島県）への視察を経て、平成23年夏には同商工会が視察バスツアーを実施した。山積みになったがれきが広がる変わり果てたまちの中に立ったときの衝撃を小金井の人たちに伝えると共に、被災地と情報を共有しながら、小金井からわずかながらも手を差しのべていくための取り組みを進めることになった。

これらの活動と商店街振興、地域コミュニティ活性化に向けた取り組みを多様な市民セクターの連携によって相乗的に合流させ、復興応援に向けての取り組みを進めていくことを確認し、「新しい公共の場づくりのためのモデル事業」の交付につながった。

立ち上げた「東日本大震災復興応援小金井プロジェクト協議会」の役割は、被災地の産品を販売するだけでなく、扱う商品や取り組みに情報を付加しながら相互交流につなげていくことであり、被災地の状況を小金井市民にも伝え、口コミを期待しながらより多くの人々の応援につなげていくことであった。

「復興応援バスツアー」の実施により小金井市民が被災地に接する機会を設け、風評被害を受けている産品購入を促し、イベント「夜明け市場」等への招へいなどを通じて、被災地市民と小金井市民をつなぎ、商工会等民間レベルの「交流協定」の締結に結びつけてきた。

本協議会は現体制を維持し、状況に応じて柔軟かつ継続的に復興応援を進めていくことを確認している。市民同士の交流を促す同様の取り組みが広がり、被災地復興のスピードがさらに上がっていくことを期待している。

■2 事業の概要

本協議会は、東日本大震災の被災地との小金井市との交流をつうじた復興支援活動、地域コミュニティの活性化を目的に活動を進めてきた。

主な取り組みとしては、復興支援に向けた被災地観光、交流およびイベントの開催。さらに、被災地産品の小金井での販売、これに関連する情報交流促進を図った。

1) 事業の方針

本協議会は、当該事業実施に際して次の3つの方針を掲げ、取り組みを進めた。

(1) 被災地の相手先をリストアップし、絞り込む

- ・すでにつながりのあるいわき市、鴨川市において、本プロジェクトに対応する相手先の調査を行う。

(2) 受け入れ、対応体制を整え、情報発信を行う

- ・被災地の産物、産品を受け入れる協議会側の受け入れ体制を整える。
- ・販売体制の構築、人的な体制などを協議会内の役割分担のもとに整える。
- ・被災地の現状や復興支援にかかわる情報の収集、発信を行う。

(3) 継続的な活動につなげる種をつくる

- ・次年度以降も維持、継続できる体制づくりをめざし、今年度はその活動基盤の整備を行う。
- ・被災地と小金井市民との顔の見える関係づくりをめざし、大規模災害時に対応可能な災害支援協定の商工会等民間レベルでの締結、自治体間の相互支援関係の構築につなげる。

2) 事業計画

(1) 復興応援のための調査等

①被災地の現地視察

すでにつながりのある、いわき市、鴨川市のほか、久慈市（岩手県）、石巻市、気仙沼市（宮城県）などに出向き、本プロジェクトの取り組み、すすめ方等を伝え、活発な復興応援、継続的な人的交流を図った。

調査内容は、以下の通りである。

- ・産物、産品仕入れ先の候補選定
- ・観光ツアー受け入れ先の候補選定
- ・現地の受け入れ担当者の候補選定
- ・災害協定等締結相手の候補リストアップ（協定内容の検討）

②計画策定

被災地への支援と都内の住宅地における地域コミュニティの再構築を結びつける継続的な運動の一環として取り組み、支え合い・助け合う自律した地域社会の形成を目指す「新しい公共」の場に相応しいモデルとしてのビジネスプランづくりを、多様なセクターの連携によって目指した。

(2) 復興応援のための物品販売

①被災地産物、製品の購入

被災地の産物、産品を扱う業者等との交渉、連携により、定期的に仕入れを行った。仕入れ先は、被災地各地の商工会等を通じてリストアップを行い、調査等を経て選定、交渉に入った。

いわき市から提示された産品一覧のサンプル



商品名	写真	商品名	写真
1 一番でせり		魚だし	
2 特上かまぼこ		どうものお餅(自由)	
3 真中やなぎ		シーフードケーキ	
4 ゆめなごの塩			

②店舗の開設

被災地から仕入れた産物、産品は、小金井市内の空き店舗を借用し、週3日を基本として販売を続けた。

この店舗には、産物、産品だけでなく、被災地からの情報、購入者からの情報などを中継、伝達する機能を持たせ、顔の見える関係からの情報交流の促進を図った。

什器、製品の搬入日の店舗「夜明け市場」



店舗ファサード



いわき産コシヒカリのコーナー

③店舗の改装

購入した産物、産品を販売するため、店舗用の改装、工事を実施した。

改装直後の店舗



ファサード部分



店舗奥の倉庫兼作業スペース

④販売員の雇用

産物、産品の購入、販売は、雇用する担当者1名と数名のアルバイトで進めた。
雇用による販売は、平成24年3月から平成25年1月まで行った。

⑤トラックのレンタルリース

トラック（中古車）のレンタルリースにより、産物、産品の購入、運搬を行った。
このトラックには、本プロジェクトの名称を入れ、活動のアピールをあわせて行った。

(3) 復興応援のための観光・交流

本プロジェクトの事業開始以前から、いわき市に向けた被災地観光&交流バスツアーを実施し、また風評被害を受けている千葉県鴨川市の物産販売業者等の小金井市でのイベントへの出店支援も進めた。

また、久慈市（岩手県）、石巻市、気仙沼市（宮城県）への情報提供、交流の打診し、

市内で開催するイベント等に対する出店へ招へいし、支援活動を継続した。

これらの企画、運営により被災地の現状を実地で確認、共有することを通じて、小金井市周辺への発信、都市部からの復興応援拡大につなげるとともに、バスツアー参加者の現地での消費を促し、地域間交流の促進を図った。

①被災地復興応援バスツアーの実施

本事業では、いわき市、鴨川市への被災地復興応援バスツアーをそれぞれ実施した。ツアーの企画、運営は小金井市内の観光業者との連携、協力の上実施した。

被災地復興応援バスツアー



昼食後の集合写真（いわき市）



大山千枚田（鴨川市）

②イベント「夜明け市場 in KOGANEI」の開催

毎月11日に開催した「いちいち市」の他、小金井市内で開催されるイベント等に、被災地からの産物、産品販売スペースを確保し、連携しながら販売を行った。

販売スペースの確保などの調整は、本協議会が行った。

市内で開催されたイベント等での出店



阿波踊りにあわせて開催した「夜明け市場」



市民まつりに出店した「夜明け市場」

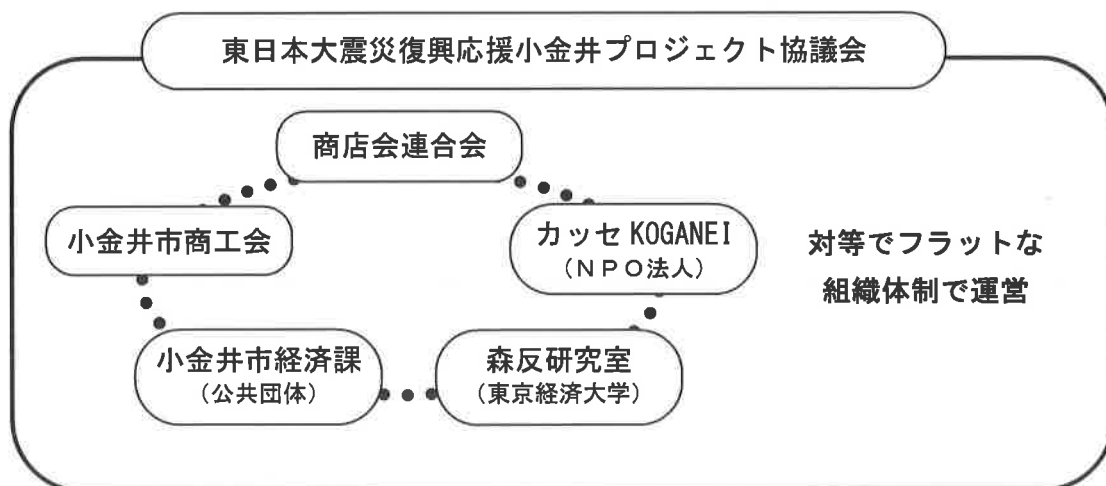
■3 協議会の体制

本協議会は、多様なセクターが連携した組織体制で事業運営を続けてきた。小金井市内で活動する組織を中心に、以前から被災地の復興応援活動に携わってきた大学の研究室のノウハウが加わり、さらにそれぞれが適切に役割を遂行したことより、活発でフレキシブルな協議会の2ヶ年の活動になった。

本協議会は今後も体制を維持、継続し、被災地各地との交流を続けながら、連携に厚みを持たせていくことを確認している。この取り組みが、小金井といわき、久慈、石巻各市との交流だけでなく、被災地間相互の交流の継続、拡大についても応援していくことを確認している。

1) 活動体制と役割

本協議会は、これまでさまざまな地域での活性化に向けた取り組みに携わった組織の連合体であり、本事業においてもそれぞれが対等でフラットな組織体制で運営を続けた。



(1) 協議会構成団体等の役割

○商店会連合会

- ・地域の商店会の発展を図る立場から、小金井の組織間の連携、人的なネットワークを活かし、民間の災害支援協定の締結や被災地産品の販売などの収益事業の実施を担った。
- ・協議会設置以前からすでに被災地側とのコンタクトがあり、被災地観光&交流バスツアーなども実施していることから、被災地側との折衝、仕入れ等の確認、調整など話し合いの窓口としての機能をまかされた。

○小金井市商工会

- ・事業実施に際して、商工業関係者、関係機関などとの情報共有を図り、協力の依頼、調

整等を進め、被災地観光&交流バスツアー、被災地製品の販売などの支援を担った。

○カッセ KOGANEI (NPO法人)

- ・協議会の活動内容の調整、協議会の活動情報の発信、イベント、広報など取り組みに対する提案、とりまとめなどを担った。

○小金井市経済課 (公共団体)

- ・消費者、商業者、町内会、NPO、大学・学生、市民など、本プロジェクトにかかわる小金井市内のさまざまなセクターとの連携を図り、小金井での地域振興、雇用の促進などにつなげていく役割を担った。また、被災自治体との相互支援、連携に向けた関係構築を目指した。

○森反研究室 (東京経済大学)

- ・都市・住宅政策の社会学的分析という研究分野の立場から、阪神淡路大震災の際に現地での支援活動を行うなどの経験を持ち、被災地側に立った専門家として、協議会活動への助言、提案、被災地での共同支援などを担った。

■4 事業の概要

本協議会が行った2ヶ年にわたる活動の概要を以下に整理する。

1) 協議会運営

(1) 計画策定

東日本大震災復興応援小金井プロジェクト協議会の平成23年度事業計画の策定を委託事業として実施。助成金の交付申請に合わせて事業計画の策定し協議会で確認した。

計画の項目は、1事業の方針、2事業の計画、3活動体制と役割、4作業スケジュールとし、主な事業として①復興応援のための調査、②復興応援のための物品販売、③復興応援のための観光交流・イベント実施を掲げた。また、活動体制は①商店街連合会、②小金井市商工会、③NPO 法人カッセ KOGANEI、④森反研究室（東京経済大学）、⑤小金井市経済課の5団体とし、それぞれの役割を規定した。

(2) 協議会開催

協議会が進める事業の企画や分担を確認するため、定期的な運営会議のほか、イベント直前においても会議を設定し調整等を図った。

会議は以下の通り開催した。

	日時・場所
1	平成23年11月2日(水) 15時～17時 黄金井の里
2	平成23年12月20日(火) 20時～22時15分 黄金井の里
3	平成24年1月10日(火) 20時～22時45分 黄金井の里
4	平成24年1月17日(火) 20時～22時30分 黄金井の里
5	平成24年2月1日(水) 20時～22時30分 黄金井の里
6	平成24年2月8日(水) 20時～22時30分 黄金井の里
7	平成24年2月14日(水) 20時～22時 黄金井の里
8	平成24年2月22日(水) 20時～22時 黄金井の里
9	平成24年2月28日(火) 19時～21時30分 商工会会議室
10	平成24年3月13日(火) 20時～22時 黄金井の里
11	平成24年3月22日(木) 20時～22時 黄金井の里
12	平成24年3月30日(金) 20時～22時 黄金井の里
13	平成24年4月10日(火) 20時～22時30分 黄金井の里
14	平成24年4月10日(火) 20時～22時30分 黄金井の里
15	平成24年4月26日(火) 20時～22時 黄金井の里
16	平成24年5月15日(火) 20時～22時30分 黄金井の里

17	平成 24 年 5 月 29 日 (火) 19 時～21 時	黄金井の里
18	平成 24 年 6 月 12 日 (火) 20 時～22 時	黄金井の里
19	平成 24 年 6 月 27 日 (木) 20 時～22 時	黄金井の里
20	平成 24 年 7 月 9 日 (月) 17 時～18 時	黄金井の里
21	平成 24 年 7 月 16 日 (月) 10 時～11 時 30 分	商工会会議室
22	平成 24 年 8 月 9 日 (木) 15 時～16 時	商工会会議室
23	平成 24 年 8 月 29 日 (水) 19 時～20 時	黄金井の里
24	平成 24 年 9 月 19 日 (水) 20 時～22 時	黄金井の里
25	平成 24 年 10 月 9 日 (火) 20 時～21 時	黄金井の里
26	平成 24 年 11 月 9 日 (金) 19 時 30 分～20 時 30 分	黄金井の里
27	平成 24 年 11 月 29 日 (木) 20 時～21 時 30 分	黄金井の里
28	平成 24 年 12 月 21 日 (金) 19 時～20 時	黄金井の里
29	平成 25 年 1 月 17 日 (木) 20 時～21 時 30 分	黄金井の里
30	平成 25 年 2 月 5 日 (火) 20 時～21 時 30 分	黄金井の里
31	平成 25 年 2 月 14 日 (木) 20 時～21 時 30 分	黄金井の里
32	平成 25 年 2 月 26 日 (火) 20 時～22 時 20 分	黄金井の里
33	平成 25 年 3 月 12 日 (木) 20 時～22 時	黄金井の里

②事務員雇用

平成 23 年 12 月 1 日から、協議会の事務局員として 1 名を 2 ヶ年にわたり雇用した。協議会の開催連絡、議事録の作成、被災地等との連絡調整、会計処理、報告のとりまとめなどの事務局事務作業を担った。

2) 視察の実施

本プロジェクトの活動内容を伝え、商品の取引内容、バスツアー等の実施に際しての調整を図るため、各地に視察を実施した。2 カ年で実施した視察は以下 5 回である。

	視察先	日時・場所	参加数
1	鴨川市	平成 23 年 11 月 15 日 (火) 06 : 45～20 : 30	5 名
2	いわき市	平成 23 年 12 月 6 日 (火) 06 : 45～22 : 30	7 名
3	久慈市	平成 24 年 5 月 10 日 (木) 05 : 00～24 : 00	6 名
4	気仙沼市	平成 24 年 6 月 5 日 (火) 04 : 45～24 : 00	6 名
5	いわき市	平成 24 年 7 月 3 日 (火) 06 : 00～20 : 30	4 名

(1) 鴨川市視察

○日時：平成 23 年 11 月 15 日 (火) 6 : 45～20 : 30

○参加：今井、斉藤、松井、高橋、千葉

○行程：小金井市→鴨川市役所→鴨川市商工会→潮騒市場→いきいき小湊ウオポート
→まるたけ→みんなみの里（JA 農産物直売所）→大山千枚田→小金井市

ア) 鴨川市役所 訪問ヒアリング

○出席：山田 一郎（建設経済部産業振興課課長）

鈴木 浩一（建設経済部産業振興課商工振興係係長）

○議事要旨

- ・9月の鴨川マーケット（風評被害のため観光事業の落ち込みが深刻化。その応援として本協議会の前身である復興応援小金井プロジェクトが主催し小金井市で開催）についてお礼と評価の確認。
- ・鴨川市の観光事業の現状について説明を受ける。3月から4月は観光客が例年の1/10という状態だった。それから比べるとだいぶ回復しているが、まだ半分ぐらいの状況。例年に比べるとまだまだ観光バスが少ない。
- ・どんな形であれ、観光に来てもらうことが鴨川市の観光事業の再生につながる。
- ・9月に行った物産販売の形は日程が合えばいつでも可能。
- ・観光スポットについては、パンフレット等でわからない点などあればいつでも相談に応じられる。

イ) 鴨川市商工会 訪問ヒアリング

○出席：大熊 賢滋（商工会事務局次長）

○議事要旨

- ・本協議会の趣旨について説明。
- ・観光事業が風評被害によって落ち込んでいることによって、商工業、特にお土産などの商業部門に大きな影響が出ている。少し回復はしてきているがまだまだである。
- ・商工会が中心に運営しているかもナビ実行委員会発行の「Kamozine」（地域情報紙）に小金井市との連携について記事にしたい。「Kamozine」を一定部数購読してもらえば、応援コーナーに名前を入れて発行したい。
- ・鴨川市の物産の仕入れに関しては、各事業所に相談してほしい。
- ・観光地の現状など情報提供するので、2月のツアーの前には連絡してほしい。

ウ) 潮騒市場、いきいき小湊ウオポート、まるたけ

- ・昼食場所として視察したが、団体での昼食は無理そうだった。
- ・お土産品（海産物）の買い物場所としては適当であるので、候補地として選定。
- ・小金井での店舗販売に向けて魚の干物などの仕入れについては可能。

エ) みんなみの里

- ・鴨川市の農産物直売所としては最も規模が大きい。
- ・農産物ばかりでなく鴨川市のお土産品のほとんどを販売しているので、ツアーの立ち寄り先としては適当との判断をした。

オ) 大山千枚田

- ・全国的に有名な千枚田のうちのひとつ。冬の千枚田はあまり絵にならないが、重要な観光スポットであることから立ち寄り先とした。

(2) いわき市視察

○日 時：平成 23 年 12 月 6 日(火) 06：45～22：30

○参 加：今井、斉藤、松井、伊藤、千葉、黒崎、五島

○行 程：小金井市→いわき市→トマトランドいわき→JAいわき

→スパリゾートハワイアンズ→NPO 勿来まちづくりサポートセンター

→小金井市

ア) いわき市 訪問ヒアリング

○出席：下山田 松人（商工観光部商工労政課参事兼課長）

志賀 大祐（商工観光部商工労政課商業振興係長）

古川 孝昭（観光物産課事務主任）

○議事要旨

- ・公共施設等の被災状況、融資助成制度等の説明。（別紙参照）

- ・本プロジェクトの概要説明。（本年 8 月のバスツアー実施などからの経緯）

→物産の販売などは風評もありむずかしい、普段の生活をしているところを見て欲しい。

→1/29（日）に小名浜、スパリゾートハワイアンズなどを巡る日帰りバスツアーを予定

- ・小金井市内に販売店を構え、農産物や加工品などの物産を販売予定。

- ・とまとランドもツアーの候補にあげられる。

- ・被害の大きかった久ノ浜で仮設の商店街ができています。

- ・東京で開催する物産展でも風評被害がひどい。

- ・リストアップされた商品は、いわき観光まちづくりビューローで対応する。

- ・湯本は作業員の宿泊が減っており、収益的にも厳しいはず。宿泊等については直接問い合わせのこと。

- ・今後の連絡は志賀氏に行う。

イ) とまとランドいわき

○説明：石橋 洋典（有限会社とまとランドいわき トマトいちじく担当）

○議事要旨

- ・ハウス内で 3 品種、5 万本を生産している。

- ・震災時は、天井のガラスが割れたりした。

- ・線量を測定して出荷しているが、風評被害は出ている。

- ・バスなどによる来訪は嬉しい。

- ・ビニル袋を 500 円で購入、摘み取り体験も可能。

- ・1/29（日）は休業の日だが、対応する。時間、段取り等については、後日調整する。

- ・連絡は石橋氏でOK。

ウ) J Aいわき

○出席：赤塚 誠（代表理事理事長）

皆川 八三（営農経済部部长）

園部 新（営農経済部営農指導課課長補佐）

○議事要旨

- ・原発のことも含めて、北の久ノ浜の被害は大きい。放射線量はほとんど出ていない状況だが・・・。
- ・市内でも状況がさまざまで、一様ではない。
- ・また、全国から支援をいただいております、感謝している。
- ・「福島」というだけで売れない。今年の米はもう売れない。東京方面への出荷が少ない。
- ・線量チェックはしていねいに行っているが J A の測定だけでは信用されない。結局知事名が必要になり、2重、3重の測定になる。
- ・3店舗あるファーマーズの売り上げは今年の半分。
- ・協議会への米の販売は可能。輸送費の優遇もあり使える。園部氏が担当窓口で。
- ・小金井市内で日持ちする産品などを中心に販売する予定。

エ) スパリゾートハワイアンズ

- ・建物、場内の状況を確認。
- ・バスツアーで利用する場合は、集合時間、集合場所をあらかじめ十分周知しておく必要がある。（館内で迷う可能性がある）
- ・今後の問い合わせ、対応は東京営業所を通じて行う。

オ) NPO 勿来まちづくりサポートセンター

○出席：館 敬（理事長）

中根 有一（なこそ復興プロジェクト事務局避難所対応担当）

○議事要旨

- ・自己紹介の後、双方の取り組み、状況を説明。
- ・勿来の岩間地区の被害が甚大で、防潮堤が陸側に打ち上げられ、地区に散乱している。
- ・1個 3m×6.5m×10mのコンクリートのかたまり数個を使って、負の遺産として残す公園を岩間地区につくりたい。固まりを移動するのに1千万円ほどの費用がかかり、その募金を集めたい。
- ・この一環で、小金井市で写真展、講演を行う。展示は12/9～17、雨デモハウス。講演は大和田氏などとともに17日の午後行う予定。
- ・当面は双方の情報共有を図っていくこととする。

(3) 久慈市視察

○日 時：平成24年5月10日（木） 5：00～24：00

○参加者：6名（ ）

○行 程：小金井市→久慈市役所→久慈観光物産館→小金井市

ア) 久慈市訪問

○出席先：岩手県久慈市役所

下館 満吉（産業振興部長）

向川 智之（交流促進課長）

ニッ神 一洋（交流促進課統括主査）

○被害の状況と復興

- ・他の行政地域に比べ被害が少ない。
- ・継続的避難訓練の成果…明治以来経験踏まえ避難訓練実施してきた。
- ・水没面積県内3番目であるが後方支援基地として貢献
- ・“もぐら館”（海底水族館）も破壊されたが復興を目指している。観光資源への補助金がなく苦慮している。
- ・久慈市は交流人口の拡大を望んでいるが、小金井側がどのようにかかわれるかは課題。
- ・久慈市は新規戦略として体験型観光に力を注いでいる。

○取り扱う産品等について

- ・短角牛：久慈市（山形村）のブランドで、全国10,000頭のうち1,000頭が久慈にいる。商品としては“明治屋”で若干取り扱われている程度。生肉は出荷していない。
- ・海産物の頒布会方式は“お楽しみセット”などとして可能。特産の、チカ、さんま、秋鮭、塩雲丹、焼雲丹、新巻鮭、しめ鯖、マツモなど季節の旬のものが対象になる。

イ) 観光物産館

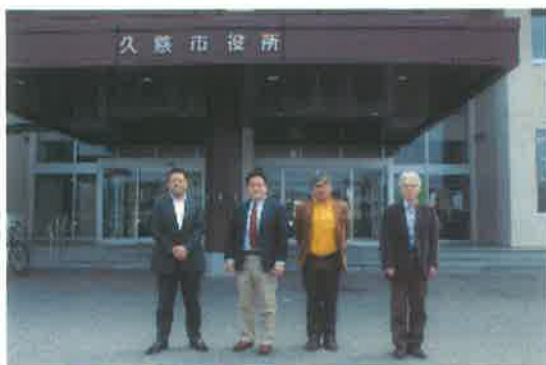
○出席：久慈観光物産館（久慈市観光物産協会）

館 博実（事務局次長）

戸川 宗純（職員）

○取扱商品の確認

- ・“久慈の詰め合わせ”（仮称）3,000円（送料込・クール便1570円 箱代420円）
- ・季節により中身は「お楽しみ」とすることで、お得感は打ち出せる。
- ・少ない数から拡大していくのを基本とし、窓口は観光協会とする。
- ・チラシの元データ久慈観光物産作成、データを“災害復興プロジェクト”宛添付。



久慈市役所前



観光物産館1階店内

(4) 気仙沼市視察

- 日 時：平成 24 年 6 月 5 日(火) 04：45～24：00
- 参 加：6 名(今井、斉藤、松井、千葉、喜美候部、五島)
- 行 程：小金井市→気仙沼横町→気仙沼商工会議所
→市内鹿折地区(共徳丸・復幸マルシェ)→南町紫市場→お魚いちば
→小金井市

ア) 気仙沼商工会議所訪問

- 出 席：春日 敏春(気仙沼商工会議所 専務理事)
齋藤 宏(気仙沼市物産振興協会 副会長)
森 淳子(気仙沼市物産振興協会 事務局著)
小松 和(気仙沼市産業部商工課商工労働係 主査)
佐藤 満(気仙沼市産業部商工課課長補佐兼物産振興 係長)
加藤 正禎(気仙沼市産業部 観光課長)
神山 昌宏(気仙沼地域開発株式会社 銀座プロジェクト推進室)
佐藤 淳一(気仙沼商工会議所 業務振興部情報処理推進室)

○議事要旨

- ・気仙沼の状況等説明の後、本プロジェクトの概要、実施事業等について説明。
- ・6/11(月)に開催を予定している「夜明け市場」での販売に向けて、フカヒレスープについてすでに物産振興協会(森さん)と調整に入っている。小金井で開催する阿波おどりや「いちいち市」にあわせて商品を販売していきたい。
- ・商品の仕入販売品目の確認、生鮮品の予約販売等について、担当者と調整していく。
- ・小金井市で開催するイベント等への気仙沼側からの人員派遣は、現状ではきびしい。
→緊急雇用の枠で人員を雇用することは可能。
- ・復興応援のバスツアーの実施も予定しているので、その際には調整いただく。
→民間組織同士の災害協定も想定しており、商品のやりとりやイベント等の開催を重ねて締結に結びつけていきたい。

イ) 復幸マルシェ

- お話：塩田 賢一(一般社団法人 気仙沼鹿折復幸マルシェ 代表理事)
村上 健児(一般社団法人 気仙沼鹿折復幸マルシェ 事務局長)

○概要

- ・鹿折地区の津波は4mほどで引き波も強くなかったため、油を含むさまざまなものが残された場所であり、その撤去に苦勞した。
- ・この地区にも商店会があったが、山の反対側の地域に全て引っ越した。塩田氏はその商店会を辞め、震災後に重機免許を取得し一帯のがれき撤去を行い、現在の「復幸マルシェ」立ち上げにこぎつけた。
- ・現在ある3棟の建物は建築の時期が違い、それぞれ異なる外観、内装になっている。
- ・今後、地権者等と調整しながらこの場所で新たな商店街を立ち上げていきたい。

ウ) その他 (印象、感想等)

- ・ 商工会議所での話し合いの後、春日理事、佐藤氏に市内を案内いただいた。高台から市街地を眺めながらの「まだまだ復旧の段階」という言葉に重さを感じた。
- ・ まちなかは、やっとながれきが撤去されたという状況で、残された建物の基礎が生々しく感じられた。今後、基礎などをもとに権利関係を整理していくとのことだった。
- ・ 加工業者が戻っていないため、水揚げされた魚を品物にできない状況にあり、復興にはまだまだ時間を要する。しかし、現地の方々は比較的元気で前向きに取り組んでいる印象を受けた。経済的、人的な支援が求められるが、現地の状況に即した、現実的、継続的な支援活動が求められていると思われた。



復興屋台村気仙沼横町前



久慈市商工会議所での会議



復興マルシェ



復興マルシェ塩田さんとの懇談

(5) いわき市視察

- 日 時：平成 24 年 7 月 3 日 (火) 06:00~20:30
- 参 加：今井、斉藤、千葉、木藤
- 行 程：小金井市→守谷 I C→中郷 I C→浜風商店街→久之浜→四倉 (道の駅)
→いわき駅 (夜明け市場) →J A 経済センター→J A 本店→塩屋崎
→小名浜 (いわき・ら・ら・ミュ) →まちづくりビューロー
→スパリゾートハワイアンズ→いわき湯本 I C→友部 I C→小金井市

ア) 浜風商店街（久之浜町商工会）訪問

○出席：根本 信一（久之浜町商工会 主査）

○議事要旨

- ・町には魚介類等の加工所があったが現在も立ち上がっていない、風評被害の影響も大きい。最近、昆布の仮設工場（町外の工業団地）が立ち上がり、「きざみ昆布」（検査済）の販売が始まった。
- ・これまでに開催した「復興応援バスツアー」のなかで参加者からぜひ地元の方々の話を伺いたいとの要望が強く、9/2（日）に開催を予定している「復興応援バスツアー」では、浜風商店街を訪問するとともに、皆さんのお話を伺いたい。

イ) JAいわき市ファーマーズマーケット訪問

○お話：星野 英樹（いわき市農業共同組合 営農経済部経済課 生活ふれあい館）

○概要

- ・9/2（日）のいわき市への復興応援バスツアーでは、前回に引き続き、ツアー参加者へのお土産などの準備を協力して進めていく。
- ・磐城農業高校と技術連携して製造した「親バカトマトジュース」は、少量生産であるが味も良く評判も良い。

ウ) JAいわき市本店訪問

○お話：片寄 利剛（いわき市農業共同組合 代表理事常務 営農経済担当）

：皆川 八三（同総合対策課 いわき農山村ふれあい交流事業 マネージャー）

：園部 新（いわき市農業共同組合 営農経済部 営農指導課 課長補佐）

○概要

- ・「親バカトマトジュース」は先月から販売を開始した。震災後、地元の磐城農業高校との技術連携により製造しており好評である。
- ・9/2（日）のいわき市への復興応援バスツアーでは、参加者へのお土産などの準備を協力して行う。梨の出荷が始まっている可能性があるため土産としても検討する。
- ・地元産のお米がようやく販売面で動き出してきた。県内の米は相当検査を行っているので他県よりもかえって安全かもしれないが、風評被害の影響が大きい。

エ) いわき観光まちづくりビューロー訪問

○お話：佐藤 義範（事業推進課 事業推進2課 物産事業販路拡大担当）

○概要

- ・7/11の「いちいち市」は参加する。当日は、生鮮関係の商品を揃える方向で準備している。売ることよりも試食してもらい東京から安心であることを発信したい。



仮設の浜風商店街



商店街にある展示室



ファーマーズマーケット



親バカトマトジュースのコーナー

3) 復興応援バスツアーの実施

被災地の復興応援を目的にバスツアーを実施した。

現地への視察訪問から、「みなさんと同じように暮らしている様子を、ぜひ見に来てほしい」という声を複数いただき、これに対応する企画としてバスツアーを実施した。

集合、解散は小金井市役所本庁舎前とし、来訪者が減少している被災地の観光スポットや製品の販売店などをめぐるコースを設定した。

広報、周知は、小金井市報、小金井市 HP、チラシ（商工会会員のみ）配布とし、参加受付は小金井市商工会とした。

実施した復興応援バスツアーは4回である。

	訪問先	日時・場所	参加者数
①	いわき市	平成 24 年 1 月 29 日（日）06：30～20：30	38 名
②	鴨川市	平成 24 年 2 月 19 日（日）06：30～20：30	39 名
③	いわき市	平成 24 年 9 月 2 日（日）06：45～20：30	42 名
④	いわき市	平成 25 年 1 月 27 日（日）06：45～20：30	38 名

(1) 福島県いわき市

○日 時：平成 24 年 1 月 29 日（日） 6：30～20：30

○参加人員：39 名（うちスタッフ 9 名）

○行 程：小金井市→トマトランドいわき→（平薄磯地区を車窓より視察）→塩屋崎
→（津波被災地通過）→小名浜「まるかつ」にて昼食・おみやげ買い物
→アクアマリンふくしま→小金井市

○委託会社：つくば観光交通

○配布物：いわき市に関する参考資料、行程地図、東日本大震災復興応援小金井プロジェクト協議会事業案内

ア) 集合・出発

・早朝 6 時 30 分。集合場所の小金井市役所本庁舎前に参加者が集合。温かいお茶とお菓子を受け取り出発。道中が長いため、いわき市が舞台となり大ヒットした映画「フラガール」を楽しみながら現地に向かった。

イ) トマトランドいわき

・ビニールハウス内のクリーンな環境で育ったいろいろな種類のトマトの摘み食べ放題を体験。
・形やサイズの異なるトマトを堪能しながら、入口で配られたビニール袋にトマトを詰め放題。売店では市価よりも大幅に安いトマトやトマトの加工品などを買う。

ウ) 平薄磯地区

・津波で最も被害が大きかった平薄磯地区を車窓より視察。基礎だけが残った住宅地やがれきの集積場、学校などが被害の大きさを物語っていた。

エ) 塩屋崎

- ・美空ひばりの「みだれ髪」でも有名な「塩屋崎」では、かろうじて津波の被害を免れた売店で買い物。販売員の女性は、店は残ったけれど自宅は津波で流されてしまったとのこと。かける言葉も見つからない。

オ) 昼食

- ・小名浜の「まるかつ」で新鮮な魚料理を堪能。干物や珍しい水産加工品を買い物。

カ) アクアマリンふくしま

- ・港に隣接するここも津波で 9 割の生き物が被害を受けたとのこと。しかし今は元気に営業中。素晴らしい建築空間とわかりやすい展示で、珍しい魚たちとの出会いをたっぷり楽しんだ。

キ) 帰路・到着

- ・帰路は友部サービスエリアで最後のおみやげを買い物した後一路小金井へ。
- ・20時30分小金井市役所本庁舎前に着。ツアーのお土産として米としゃぶしゃぶ用の牛肉、復興支援ミニのぼりを参加者全員に配布し解散。



トマトランドいわき



平薄磯地区



塩屋崎で



アクアマリンふくしまでの集合写真

(2) 千葉県鴨川市

○日 時：平成24年2月19日（日） 6：30～20：30

○参加人員：38名（うちスタッフ8名）

○行程：小金井市役所前→みんなみの里→大山千枚田→菜な畑ロード
→昼食・和食処「藤よし」→鴨川シーワールド→道の港「まるたけ」
→小金井市

○委託会社：つくば観光交通

○配布物：鴨川市に関する参考資料、行程地図、東日本大震災復興応援小金井プロジェクト協議会事業案内

*事業評価の資料とするため参加者アンケートを実施。

ア) 集合・出発

- ・早朝6時30分。集合場所の小金井市役所本庁舎前に参加者が集合。受付で温かいお茶とお菓子を手渡し、出発。車内で、鴨川をロケ地にした映画「BALLAD 名もなき恋のうた」を楽しみながら現地に向かった。高速道の途中、海ほたるで休憩。

イ) みんなみの里

- ・鴨川市の総合交流ターミナル、みんなみの里で休憩、各自農産物等の購入。
- ・みんなみの里は、地元で採れた新鮮野菜、美味しいと評判の長狭米、手工芸品などを扱う農産棟直売所で、それぞれ地域の産品を買い求めている。

ウ) 大山千枚田・菜の花畑

- ・大山千枚田は、嶺岡の山のふもと一帯の4ヘクタールほどの傾斜地に広がる大小の水田で、NPO法人などがかわり組織的に水田を維持しているため、休耕田はなく見事な景観を形成している。
- ・当日は天候に恵まれ、参加者は静かに眺めるあるいは写真撮影など風景を楽しんだ。

エ) 菜な畑ロード

- ・菜な畑かもがわ実行委員会が実施している菜な畑ロードを訪れた。鴨川市役所隣の水田を利用し菜の花畑にしているもので大きく広がる風景を眺めることができた。菜の花は、有料で摘み取る事ができ、記念撮影などとともに楽しんだ。

オ) 昼食

- ・昼食は、あらかじめ予約、手配した和食処「藤よし」で鮮魚料理を味わった。

カ) 鴨川シーワールド

- ・鴨川シーワールドは、イルカやシャチのパフォーマンス、海を再現した水族館など持つ有名なテーマパークで、さまざまなショーを楽しめるようにゆったり時間をとりツアー参加者に楽しんでいただいた。

キ) 道の港「まるたけ」

- ・房総近海の新鮮な魚の干物を売りにしているが、風評被害により売り上げが激減しており、産品を扱う店舗を今回のツアーに組み込んだ。ツアー参加者はそれぞれ産品を購入するなど、買い物を楽しんでいた。

ク) 帰路・解散

- ・帰りも海ほたるで休憩をとった。途中、渋滞による帰着の遅れが予想されたため、食事等を促した。20時10分小金井市役所本庁舎前に到着。ツアーのお土産と復興支援ミニのぼりを参加者全員に配布、解散した。



大山千枚田



菜な畑ロードでのひととき



鴨川シーワールド前で



まるたけ前で

(3) 福島県いわき市

○日 時：平成24年9月2日(日) 6:45~20:30

○参加人員：42名(うちスタッフ7名)

○行 程：小金井市→小名浜「まるかつ」にて昼食→「塩屋崎」見学
→久之浜地区視察(津波被災地)
→浜風商店街(久之浜地区仮設商店街)視察
→「いわき・ら・ら・ミュウ」で買い物→小金井市

○委託会社：(有)ブルーグラスバス

○配布物：いわき市に関する参考資料、行程地図、東日本大震災復興応援小金井プロジェクト協議会事業案内

○事業評価の資料とするため参加者アンケートを実施

ア) 集合・出発

- ・早朝6時45分、小金井市役所本庁舎前に参加者が集合。受付とともにパンと飲み物を配布し出発。バスツアーの主旨などを案内、その後車内でいわき市を舞台とした大ヒ

ット映画「フラガール」を放映、楽しみながらいわきに向かった。

イ) 塩屋崎

- ・美空ひばりの「みだれ髪」でも有名な「塩屋崎」で記念撮影後、自由時間とした。参加者は土産店に掲示されている津波の様子の写真を静かに見ている。店は残ったけれど自宅は津波で流されてしまった話を、静かに聞いていたツアー参加者もいた。

ウ) 久之浜地区視察（津波被災地）

- ・久之浜は被害無しの家屋が数パーセントという地区で、ほとんどの区域に土台だけが残っている状況だった。ツアー参加者のみなさんは静かに様子を確認していた。

エ) 浜風商店街（久之浜地区仮設商店街）

- ・被災から半年後の平成 23 年 9 月 3 日に久之浜第一小学校の校庭の一部を借りて再開した商店街である。学校の敷地内であることから調整に手間がかかったこと、期限付きの利用であることなどが紹介された。

オ) 「いわき・ら・ら・ミュウ」で買い物

- ・いわき・ら・ら・ミュウ（いわき市観光物産館）は被災から 8 ヶ月後に再開しているが、風評被害を受けて小名浜港で水揚げしたものには値がつきにくい状況が続いている。そのため、他地域の魚貝を仕入れ、あるいは加工した製品の販売が中心となっている。ツアー参加者はそれぞれ気に入った物を購入していた。

カ) 帰路・解散

- ・帰路の途中、友部サービスエリアで夕食とともに土産の買い物を楽しみ、予定よりも早めの 20 時に小金井市役所本庁舎前に到着し、ツアーのお土産を配布し解散した。



塩屋崎での集合写真



1年以上も風景が変わらない久之浜地区



浜風商店街の話を伺う



産品を購入したいわき・ら・ら・ミュウ

(4) 福島県いわき市

○日 時：平成 25 年 1 月 27 日（日） 6：45～20：30

○参加人員：38 名（うちスタッフ 9 名）

○行 程：小金井市→いわき市石炭・化石館「ほるる」見学

→「JA いわき市・ファーマーズマーケット「新鮮やさい館」で買物

→「いわき・ら・ら・ミュウ」で昼食・買い物

→久之浜地区視察（津波被災地）

→浜風商店街・交流協定調印式、視察・買い物、

→小金井市

○委託会社：(有) ブルーグラスバス

○配布物：いわき市に関する参考資料、行程地図、東日本大震災復興応援小金井プロジェクト協議会事業案内

○事業評価の資料とするため参加者アンケートを実施

ア) 集合・出発

- ・早朝 6 時 15 分。小金井市役所本庁舎前に参加者が集合。受付とともに菓子と飲み物を配布し出発。バスツアーの主旨や注意点などを案内、その後車内でいわき市を舞台とした大ヒット映画「フラガール」を放映し、楽しみながらいわきに向かった。途中渋滞もなく順調に移動でき、予定より早く「ほるる」に到着。

イ) いわき市石炭・化石館「ほるる」

- ・施設前で記念撮影後に館内を見学。ツアー参加者は学芸員ガイドの解説に熱心に耳を傾け、化石や炭坑の展示を見学していた。
- ・ここから「いわき観光まちづくりビューロー」の平山専務理事がツアーに同行し、バス社内で被災の状況や現在のいわき市の状況を詳しくご説明いただいた。

ウ) JA いわき市・ファーマーズマーケット「新鮮やさい館」

- ・季節の農産物を販売する直売店らしく、新鮮で安価な野菜や果物、総菜や花、卵などが数多く並んでおり、ツアー参加者は早速多くの商品を購入していた。

エ) 「いわき・ら・ら・ミュウ」

- ・最初に 2 階の和食レストラン「いちよし」にて昼食。その後は自由行動で、ツアー参加者は東日本大震災の記録展示の見学や買い物をしてきた。出発前に記念写真撮影。

オ) 久之浜地区視察（津波被災地）

- ・ほとんどの区域は基礎土台だけが残っている状況は変わらず雑草が無造作に生えている。久之浜町商工会の根元主査の解説により海岸周辺を 30 分ほど視察。津波と直後の大火で商店街の約 40 店舗が全半壊したとのこと。ツアー参加者は家屋の跡を静かに歩き、時折手を合わせて祈る姿も見られた。

カ) 浜風商店街（久之浜地区仮設商店街）

- ・被災から半年後の平成 23 年 9 月 3 日に久之浜第一小学校の行程の一部を借りて再開した商店街で、プレハブ 2 棟に久之浜町商工会事務所と 10 店舗が入っている。
- ・最初に、これまでの経緯などについてのお話を伺った。学校の敷地内であることから調整に手間がかかったこと、期限付きの利用であることなどが紹介され、まだまだ課題が多いこともわかった。次に、久之浜町商工会と小金井市商工会、小金井市商店会連合会との交流協定調印式を行った。久之浜町商工会 坂本一朗会長、小金井市商工会 村越政雄会長、小金井市商店会連合会 今井啓一郎会長により交流協定調印式が行われ協定が結ばれた。そして当協議会と小金井コーラスグループ「凜」からの記念品を贈呈した。
- ・商店街からは豚汁、ミソおでん、コーヒーなどが振る舞われ、ツアー参加者は被災状況の写真を見たり商店で買い物をしたりと、商店街の方々と交流していた。最後に商店街の方々も交えて記念撮影を行い、多くの方々が手を振り見送る中帰路についた。

キ) 帰路・解散

- ・帰路の途中、友部サービスエリアで休憩と土産の買い物を楽しみ、小金井に向かった。予定よりも早く 20 時に小金井市役所本庁舎前に到着し、ツアーのお土産を配布し解散した。



「ほるる」前での集合写真



やさい館で産品を購入



P 昼食後、ら・ら・ミュウで買い物



風景が変わらない久ノ浜地区



浜風商店街との交流協定の調印



交流協定の調印

4) 「夜明け市場」での産品販売活動

震災や原発事故の風評被害により売上が減少している被災地の産品を販売・PRすることによって復興応援を進めた。そして、この災害の記憶が風化させないよう、被災地の状況や現状を広く知らしめ、継続的な支援体制を構築することを目的とした。イベント名は「夜明け市場 inKOGANEI」とした。このネーミングは、いわき市の飲食店が中心になって運営している復興プロジェクト「夜明け市場」から主催者の了解を得て使用させていただいたものである。

「夜明け市場 inKOGANEI」での販売は、店舗「夜明け市場」での販売、毎月11日に武蔵小金井南口アクウェルモールで出店した「いちいち市」、被災地から招へい、出店した「夜明け市場 in KOGANEI」の3つの活動を通じて行った。

販売に際して復興応援募金を実施し、浜風商店街へのPA機器贈呈にあてた。

(1) 店舗開設・物品販売

ア) 被災地産品仕入れ

いわき市（福島県）、気仙沼市（宮城県）久慈市（岩手県）と調整し、産品の仕入れを定期的に行った。発注は小金井市経済課、受け取りは小金井市商工会が主にあつた。

このほかに、以下の商品の仕入れ等を行った。

○被災地の栗仕入れ（茨城県産）

・被災地である茨城県の栗を仕入れ、自主事業で実施されている「栗焼酎プロジェクト」に販売した。

○被災地の米仕入れ（福島県いわき市産）

- ・被災地である福島県いわき市の米を仕入れ、小金井市タウンショップ「黄金や」で委託販売した。

イ) 店舗開設等

事業計画にもとづき復興応援のための物品販売を行うため、平成23年12月29日に店舗用物件の借り入れた。店内改装の後、2月中には物品の陳列を終えた。また、販売員については応募要項を定め、店頭でのチラシ掲示、口コミによる募集を行い、面接の上アルバイト（2カ年で7名）としてお願いした。

(2) 店舗「夜明け市場」での販売

店舗「夜明け市場」は、JR武蔵小金井駅南口から徒歩4分ほどの場所に開設し、毎週木金土の3日間開店し販売を続けた。店舗での継続的な販売により、常連客、固定客が増え、入荷予定を確認する声も徐々に聞かれるようになった。

また、掲載された新聞記事を見て他市から被災地出身の方がわざわざ来店されたこともあり、涙を浮かべてお礼をおっしゃることもあった。



店頭のワゴン



久慈市の商品コーナー

東日本大震災復興応援

午前 11時~

3月21日(水)

夜明け市場

in KOGANEI

ショップ開店!!

来る3月1日、2日にJR武蔵小金井駅前にて開催され、
たくさんのお買い上げとご支援をいただきました「夜明け市場 in KOGANEI」が、
本町1-6-7に通常のショップとして開店します！
「夜明け市場 in KOGANEI」は、震災や原発事故、風評被害により
売上げが激減してしまっている被災地の産品を
販売・PRすることで復興を応援するお店です。
ぜひご来店下さい。

3月の営業日:
21日(水)、22日(木)、24日(土)
28日(水)、29日(木)、31日(土)

4月の営業日:
4日(水)、5日(木)、7日(土)
*2023年4月1日より営業時間変更です。

営業時間: 11:00~17:00

主催: 東日本大震災復興応援小金井プロジェクト協議会
*お問い合わせ先: 042-381-4764 (受付時間: 11:00~17:00)
*お問い合わせ先: 042-381-4764 (受付時間: 11:00~17:00)
*お問い合わせ先: 042-381-4764 (受付時間: 11:00~17:00)

開店案内のチラシ

(3) 「いちいち市」の開催

毎月11日に武蔵小金井駅前(アクウェルモール1階)で被災地の産品の販売を行った。販売にあたっては開催予定をいわき市側に伝え、生鮮ものとレトルト、瓶詰め等をあわ

せての販売を依頼した。また、協議会側は久慈市からの生鮮ものを中心に陳列、販売した。設営、販売は協議会メンバー、雇用者、アルバイトにより対応した。

○開催日時：平成24年、6/11（月）、7/11（水）、8/11（土）、9/11（火）、10/11（ ）、11/11（ ）、12/11（ ）、平成25年1/11（金）、2/11（月）の11時～17時

○参加：協議会メンバーで分担して対応

○開催場所：アクウェルモール1階通路



6/11 いちいち市



いわき市コーナー



2/11 のいわき市コーナー



2/11 の協議会のコーナー

(4)「夜明け市場 in KOGANEI」の開催

久慈市、気仙沼市、鴨川市、いわき市などと調整、出店する「夜明け市場 in KOGANEI」を定期的で開催した。場所は、JR武蔵小金井駅南口の歩道上を利用し、テント等並べて設営し、被災地のみなさんとともに商品の販売を行った。

一部テントは休憩スペースを確保し、被災地の写真や協議会活動の報告パネルの掲示をあわせて行った。協議会本部テントでの販売は協議会メンバー、雇用者、アルバイトによって行った。

また、都立小金井公園で開催された「第40回小金井なかよし市民まつり」や「第34回小金井阿波おどり」、「第1回 黄金井うまいもん選手権」、「第10回黄金井名物市」などに合わせて出店、販売した。

このほかに、府中市農業まつり実行委員会メンバーから販売の申し出があり、委託販売の形で商品を預け販売をお願いした。

「夜明け市場 in KOGANEI」の開催日時は次の通りである。

	日時	備考（開催場所）
1	平成24年3月1日（木）・2日（金）11時～19時	
2	平成24年7月27日（土）・28日（日）14時～21時	第34回小金井阿波おどり
3	平成24年10月20日（土）・21日（日）10時～17時	第40回小金井なかよし市民まつり（都立小金井公園）
委託	平成24年11月17日（土）・18日（日）	第23回府中市農業まつり（府中市郷土の森博物館）
4	平成24年12月8日（土）・21日（日）10時～17時	第10回黄金井名物市（栗山公園・小金井市）
5	平成25年3月7日（木）・8日（金）10時～17時	

*開催場所の記載のないものは、JR武蔵小金井駅南口の歩道上で実施した

ア)「夜明け市場 in KOGANEI」の実施状況

○日 時：平成24年3月1日（木）・2日（金）11時～19時

○出 店：鴨川市（千葉県）、いわき市（福島県）、久慈市（岩手県）、本協議会

○開催場所：武蔵小金井駅南口歩道



鴨川市のコーナー



写真パネルを掲示した本部テント

イ)「夜明け市場 in KOGANEI」の第34回小金井阿波おどりでの実施状況

今年34回目を迎える「小金井阿波踊り」にあわせて「夜明け市場 in KOGANEI」を開催した。2日間にわたり10張りのテントを設置し三市の販売に加えて写真パネルの展示、産品販売を当該協議会も実施した。

○日 時：平成24年7月27日（土）・28日（日）14時～21時

○出 店：いわき市（福島県）、気仙沼市・石巻市（宮城県）、久慈市（岩手県）、
本協議会

○開催場所：武蔵小金井駅南口歩道



久慈市の販売コーナー



写真パネルを配した休憩スペース



協議会のコーナー



2日間にわたり多くの人出があった

ウ)「夜明け市場 in KOGANEI」の第40回小金井なかよし市民まつりでの実施状況

○日時：平成24年10月20日(土)・21日(日)11時～17時

○出店：久慈市(岩手県)、いわき市(福島県)、本協議会

○場所：都立小金井公園内



久慈市のテント



天候に恵まれた市民まつり

エ)「夜明け市場 in KOGANEI」の開催

○日時：3/7(木)、8(金)、10時～18時

○参加：福島県いわき市、宮城県石巻市、岩手県久慈市、本協議会

○開催場所：武蔵小金井駅南口歩道

○開催概要

新しい公共支援事業として最後の活動月として、これまで交流が継続した被災地3市を、
 産品販売スペースを確保して招へいた。3市のテントに加え、協議会は写真パネル
 を展示した休憩コーナーと販売コーナーを設けて展開した。

初春の2日間で3市とも良い販売額を上げたようである。各市のみなさんからは、「つ
 かず離れず見守ってくれている感じがして、売りやすかった」、「小金井の人たちはとて
 も優しい」、「このような場、機会をぜひ継続的に設けてほしい」、などの声が聴かれ、協
 議会活動にも励みとなった。

今後も活動を継続すること、交流協定締結をさらに広げていきたいことをみなさんに
 伝え、またの再会を約束して2日間の「夜明け市場」を終えた。



協議会の販売コーナー



宮城県のテント



パネルを配した休憩コーナー



いわき市のコーナー

5) 「交流協定」の締結

本協議会の活動目標の一つに、民間組織間による災害時の相互支援を目的とした協定
 締結をかかっていた。特に大規模な災害からの復旧・復興には、行政の支援活動だけ
 なく民間レベルでの連携、支援が必要不可欠であることが、東日本大震災による被災
 から明らかである。

その協力体制を災害時だけでなく、暮らしの中の日常的なレベルから相互に交流して
 いく「交流協定」の締結を被災地側と小金井市側で結ぶことを本協議会は目指し、視察、
 復興応援バスツアーの実施などの活動、交流を経て、小金井市商工会、小金井市商店会
 連合会と久之浜町商工会（いわき市）の協定の締結に至った。

久之浜町商工会側は、この「交流協定」締結の申し出を歓迎し、大変快く受け止めて頂いた。今回締結したのは2協定だけであるが、平成25年度に石巻市（宮城県）、久慈市（岩手県）とも同様の協定を締結する予定である。

本協議会は今後も被災地との交流を広げ、「交流協定」などの締結につなげていくべく活動していくことを確認している。

○「交流協定について」と「交流協定」／久之浜町商工会～小金井市商工会

福島県いわき市久之浜町商工会 東京都小金井市商工会 交流協定について

福島県いわき市久之浜町商工会と東京都小金井市商工会は東日本大震災復興の取り組みを通じて、両商工会会員並びに地域住民の交流により友好と親善を深めてきた。

その経緯を踏まえ、商工業者の団体として、今後も両会相互の更なる友好関係の発展のため、ここに交流協定を締結し交換するものである。

交 流 協 定

商工業の振興活動を通じて、うるおいと安らぎをもたらすまちづくりをすすめる福島県いわき市久之浜町商工会と東京都小金井市商工会は、互いの歴史と文化を尊重し、これを基盤として、会員及び地域住民相互の理解を深め、友愛の精神を育むことを誓う。

さらに、両会の会員及び地域住民相互の自主性を尊重し、商工業の振興活動による交流、災害時の協力を実施する。

我々は、この交流を通じて復興を図り、お互いの繁栄と発展をもたらすよう努力することを約し、この協定を締結する。

平成25年1月27日

久之浜町商工会 会長
坂本一朗

小金井市商工会 会長
村越政雄

○「交流協定について」と「交流協定」／久之浜町商工会～小金井市商店会連合会

**福島県いわき市久之浜町商工会
東京都小金井市商店会連合会**

交流協定について

福島県いわき市久之浜町商工会と東京都小金井市商店会連合会は東日本大震災復興の取り組みを通じて、両商工会会員並びに地域住民の交流により友好と親善を深めてきた。

その経緯を踏まえ、商工業者の団体として、今後も両会相互の更なる友好関係の発展のため、ここに交流協定を締結し交換するものである。

交 流 協 定

商工業の振興活動を通じて、うるおいと安らぎをもたらすまちづくりをすすめる福島県いわき市久之浜町商工会と東京都小金井市商店会連合会は、互いの歴史と文化を尊重し、これを基盤として、会員及び地域住民相互の理解を深め、友愛の精神を育むことを誓う。

さらに、両会の会員及び地域住民相互の自主性を尊重し、商工業の振興活動による交流、災害時の協力を実施する。

我々は、この交流を通じて復興を図り、お互いの繁栄と発展をもたらすよう努力することを約し、この協定を締結する。

平成25年1月27日

久之浜町商工会 会長

坂本一朗

小金井市商店会連合会 会長

今井啓一郎

■5 事業、取り組みにおける課題

当該プロジェクトは、被災地の産品を販売するだけでなく、この活動をツールとして被災地の状況を小金井市民に伝え、可能な限り継続した交流につなげていくことを意図してきた。

この2カ年で交流協定締結に至るなど活動は一定の成果を上げてきているが、被災地の状況に触れるたびに活動の非力さを感じ、常に自問自答を重ねる取り組みではあった。

しかし、細くとも長い期間、復興に向けての応援を続けることが、内容は異なるものの被災地、小金井市双方の意識づくりにつながり、より活発な行動に移っていくことができるのではないかと考えられる。

以下に、事業取り組みを進めるに際しての課題を整理する。

1) 被災地側との関係構築

本協議会が進めてきた事業は、応援の対象である被災地側の体制などによって大きく影響を受けるものである。活動当初は、各自治体の行政、商工会、JAなどへの折衝の上、商品取引、バスツアーの受け入れなどについて、それぞれ照会、調整を重ねたが、継続的な取引、交流協定締結に至るには双方の話し合い、取り組みに対するポテンシャルが不可欠であった。被災地にとって全国からの支援活動への対応は、復興の入り口にある被災地にとっては時としてうれしい悲鳴になり得ることも伺え、特に現場の苦労は計り知れないものと思われた。そのような状況の中で、被災地ごとの異なる状況に合わせて交渉、取引を続けていくためには信頼関係の構築が不可欠であり、顔を合わせる機会を設け定期的に情報を共有していくことが肝要と思われる。

また、数回のイベント「夜明け市場」の開催によって被災地間の情報共有、交流が図られつつあり、より多様な活動への展開が期待できる状況にある。

2) 運営体制の担保と活動資金の確保

本協議会の運営は、多様なセクターのメンバーで構成、運営してきたが、それぞれが仕事の合間を縫っての活動であり、雇用した事務局員だけでまかなえる事業規模ではなかった。マルチステークホルダー・プロセスという多様な担い手が協働して地域の諸課題の解決に当たる仕組みによって事業を遂行することができ、一定の成果を得ていると考えているが、提供してきた労働力とこれに見合う対価を換算すれば、貢献活動として大きな社会的効果を上げていると言ってよい。

今後の継続的な協議会活動においても、現在の基本的な体制は維持し運営をまかなっていくことになるが、より使い勝手が良く現場の状況に即した公的な支援プログラム、助成金あるいは補助金制度の拡充が求められる。

■6 モデル事業としての特徴

当該プロジェクト協議会は5つの組織の連合体であるが、その構成員は職業も含め大変多様であり、それぞれが得意分野で力量を発揮し、連携、補完しあうことによって、より前向きな取り組みにつながってきている。この体制は、今後の継続的な活動が期待できるモデル事業として位置づけてよいと考えられる。

当該協議会のモデル事業としての特徴について、以下に整理する。

1) 多様なセクターの有機的な連携組織による継続的な応援活動

- ・2カ年に渡る「東日本大震災復興応援小金井プロジェクト」の協議会活動は、規模が大きく、企画、イベント等での設営、デザインを含む広報・告知、販売、会計処理を含む事務処理など多岐に及び、どの作業も相応の量となった。この取り組みを円滑に進められたことは、小金井市商工会、小金井市商店会連合会、小金井市経済課、カッセKOGANEI（NPO法人）、森反研究室（東京経済大学）のメンバーの個々人レベルでの連携による部分が大きく、比較的短時間に有機的な組織に成長してきたことに起因している。そしてこの体制の持つ力が今後の継続的な活動につながっており、組織としての行動力、活動力は評価されて良いと考えられ、さらに他地域への復興応援、交流協定の締結などに発展していくポテンシャルを保持している。
- ・また、本協議会の活動の継続は、やっとな復興の入り口にさしかかった被災地の方々からとても歓迎されており、これに答えていくためにも、また応援の内容や相手を拡大していくためにも不可欠な取り組みであると考えられる。

2) カウンターパートの掘り起こし

- ・本協議会活動のカギは、取り組みに対応するカウンターパートの掘り起こしであった。活動当初、被災地側の情報収集から始まり、視察訪問の際の受け入れなど事務的な連絡体制、情報共有など、被災地側、小金井側双方の組織の状況により、取り組み成果の内容、質が大きく影響を受ける。その意味で、2カ年にわたる協議会活動の中で民間レベルの「交流協定」締結が実現し、双方の構成メンバー同士の交流が図られつつあることは評価されてよい。
- ・今回のような遠隔地間での取り組みにおいても顔の見える関係づくり、信頼関係の構築は基本要件であり、この課題は全国どの地域でも同じであろう。復興応援をキッカケに、フラットで対等な関係の中から連携や交流、さらには被災地、小金井市双方でまちづくりの視点などが養われていくことが期待され、そのことが今後の交流の拡大、継続にも寄与していくと考えられる。

■7 平成 25 年度以降の取り組み

当該プロジェクト協議会は、その組織体制を維持し今後も継続的に被災地の復旧・復興を応援していくことを確認しており、その準備にも入っている。その理由は明らかで、視察やバスツアーで訪れる被災地の 2 年たった今の何も変わらない風景、状況に触れ、「いまだ復旧の段階」という現地の方の言葉に対し、わずかながらでも支えになればという協議会メンバーの思いがあるからに他ならない。

平成 25 年度以降の協議会の取り組みについて、以下に整理する。

1) 組織、運営体制の維持、継続

- ・東日本大震災復興応援小金井プロジェクト協議会は、組織体制を維持し今後も継続的に活動していくことを運営会議で確認している。
- ・取り組みの内容としては、これまで実施してきた、「いちいち市」、「夜明け市場」、「復興応援バスツアー」の継続とともに、他の被災地との交流協定の締結に向けた活動とこれに伴う視察、連携した活動に向けての話し合いなどとなる。
- ・平成 24 年度末時点で決定している平成 25 年度の取り組みは、以下の通りである。

実施予定日	取り組み名称	実施概要
毎月 11 日	○「いちいち市」の開催	・被災地製品の販売 ・いわき市など販売活動の招へい
6 月	○久慈市（岩手県）視察	・現地の状況確認 ・交流協定締結に向けての調整
9 月	○復興応援バスツアー実施 ・いわき市（福島県）	・久ノ浜商店街などとの交流 ・物産販売施設などの訪問

2) 活動資金の確保

- ・当該プロジェクトの継続的な活動に向けて、小金井市商工会が資金確保を図り、「夜明け市場」などのイベント時に使用するテント設営費等に充てていく予定である。
- ・広報告知については、市報、チラシの配布、フェイスブックなどコストのかからない方法を使っていく。

3) 事務作業員の確保

- ・「新しい公共支援事業」が終了し、イベント等で販売する製品の発注、支払いなどの事務作業をまかなう人力的な体制が維持できなくなるため、当面は商工会がその役割を担い、協議会メンバーと連携、協力しながら活動を進める。

8 資料編

〇いわき産コシヒカリ販売チラシ

店舗販売のほか、新聞折込を行って販売を進めた。

東日本大震災復興応援

サンシャインいわき **販売中!**

コシヒカリ



この商品の放射線量は、福島県が実施した放射性物質調査により暫定規制値を下回っています。



販売価格(税込)

5kg

2,500円

※小井市内のみ

東日本大震災から一年、被災地はまだ大変です。私たち東日本大震災復興応援小金井プロジェクト協議会は、震災や原発事故、風評被害により売上げが激減してしまっている「いわき市」の米を「JAいわき市」と連携して販売・PRすることで復興を応援しています。

いわき市 ●

小金井市 ●

配送料込みの価格です

販売者: 東日本大震災復興応援
小金井プロジェクト協議会

JAいわき市 協賛
JA全農 協賛
JA全中 協賛
JA全東 協賛
JA全北 協賛
JA全南 協賛
JA全中 協賛
JA全東 協賛
JA全北 協賛
JA全南 協賛

※この事業は、東京都新しい公共支援事業の助成事業です。

●下記注文書に必要事項をご記入の上、小金井市商工会までFAXでお申し込み下さい。

●代金支払方法:代金は商品と引き換えでお支払いください。価格には送料を含んでおります。※小井市内のみ

●商品のお届け:ご注文確認後、1週間程度でご自宅までお届けいたします。

※ご記入された個人情報は、商品のお届け及びお問合せ等に使用いたします。

<input type="checkbox"/> 東日本大震災復興応援 「サンシャインいわき コシヒカリ」を購入します。	● 1袋 5kg 2,500円(税込)
ご住所 〒 _____	袋
お名前 _____	() _____

お申込みはFAXで!

小金井市商工会

小金井市前原町 3-3-25
☎ 042-381-8765

FAX: 042-382-8585

お問合せ: ☎ 042-381-8765

○バスツアー募集チラシ

商工会会員向けにチラシを配布し、参加者を募った。

平成23年12月21日

小金井市商工会 会員各位

小金井市商工会
会 長 村 越 政 雄
小金井市商店会連合会
会 長 今 井 啓 一 郎
(公印省略)

【東日本大震災 復興応援 小金井プロジェクト】

「福島県いわき市 復興応援 日帰りバスツアー」募集のお知らせ

〈 昼食・おみやげ付 〉

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

また、平素より本会の活動・運営にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、小金井市商工会、小金井市商店会連合会が参加した取り組みとして、「東日本大震災復興応援小金井プロジェクト」が事業を進めています。その一環として、福島県いわき市への日帰りバスツアーを実施することとなりました。

いわき市においても、多くの方に「観光」において頂くことが一番ありがたいとお話がありましたので、ぜひみなさまにご参加いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

記

1. 日 時：平成24年1月20日(日) 朝6:45出発 - 夜20:30着(予定)
2. 行 程：小金井(6:45 市役所本庁舎出発) → 〈 高 速 道 〉 → とまとランドいわき(予定) (10:30 トマト摘みとり) → 塩屋崎(観光・買物) → (津波被災地通過) → ららミュウ(昼食・買物) → アクアマリンふくしま(見学・買物) → 〈 高 速 道 〉 → 小金井(20:30 頃着予定)
3. 参 加 費：大人お一人 6,500円・小人 3,500円(中学生のみ)
※昼食代、おみやげ(2,000円相当)を含みます。
4. 定 員：40名(バス1台=定員になり次第締め切ります。)
5. 申し込み：小金井市商工会まで参加費を添えてお申し込み下さい。
6. 締め切り：1月16日(月)
7. 問合せ先：小金井市商工会(担当・伊藤)TEL 381-8765・FAX 382-8585
8. 主 催：東日本大震災復興応援小金井プロジェクト協議会

※ ツアーの詳細は、参加者の方に1月20日までに改めてご連絡させていただきます。

※東日本大震災復興応援小金井プロジェクト協議会は、商店会連合会、商工会、NPO団体、小金井市(経済課)、東京経済大学商反研究室が構成団体となって、東日本大震災被災地の復興を支援するため、7月末に結成されました。国の「新しい公共支援事業」の助成を受けています。

福島県いわき市 復興応援 日帰りバスツアー申込書

以下の項目は必ずご記入下さい。

1. お 名 前：
2. ご 住 所：
3. 自宅電話：
4. 携帯電話：

〇いちいち市ポスター・チラシ

開催 10 日前ころにポスター、チラシを作成、掲示、配布して購買を呼びかけた。

東日本大震災復興応援

12月11日(火)

夜明け市場の

いちいち市

in KOGANEI

明けない夜はない!

アクウェルモール1階にて開催!

震災や原発事故、風評被害により売上げが激減している被災地の産品を販売・PRすることで復興を応援するお店「夜明け市場 in KOGANEI」はおかげさまでもちまして3月21日の開店以来、多数のお客様にご来店いただいております。

そこで大震災の発生した日にちなんで、毎月11日を「いちいち市」として感謝セールを行います。

今回は福島県いわき市が参加します。

この日だけの限定商品や、通常より安くお求めいただけるチャンスです!

皆様のご来店を心よりお待ちしております。

福島県いわき市の
お店が出ます!



場所: アクウェルモール1階
日時: 12月11日(火)
午前11時~午後5時
※売切れ次第終了

開催時間

午前11時~午後5時
※売切れ次第終了!

いわき市 ●
小金井市 ●

主催: 東日本大震災復興応援小金井プロジェクト 協議会

小金井市商店会連合会、小金井市職工会、小金井市商連盟、Koganei KOGANEI (NPO法人)、産経研究所(東京経済大学)

お問合せ先: 小金井市商工会 042-381-8765 FAX.042-382-8585

※この事業は、東京都市圏の公共支援事業の助成事業です。

○掲示用写真パネル

協議会の活動概要を伝えるパネルを作成し、「夜明け市場」などで掲示した。

